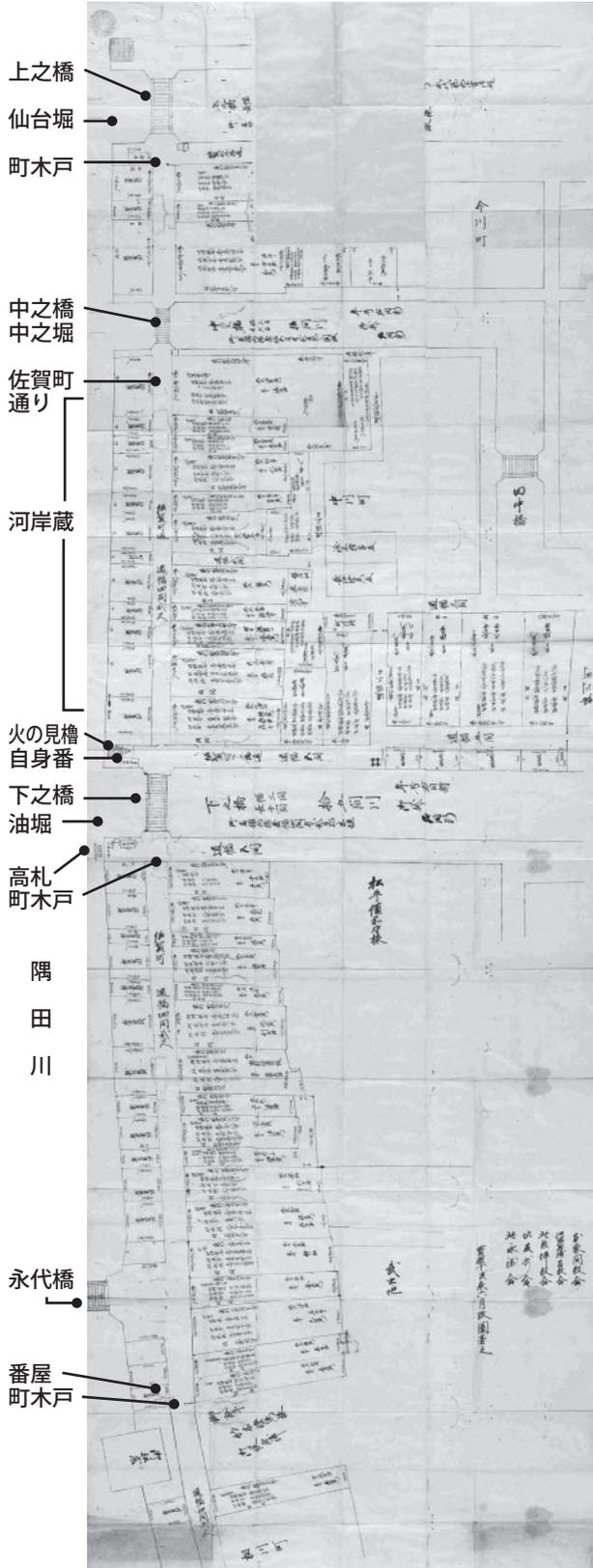


長屋と人々の暮らし④

展示室の舞台 深川佐賀町

江東区深川江戸資料館

〈主な施設〉



「深川佐賀町惣絵図」嘉永3年(1850)写し
東京都立中央図書館特別文庫室蔵

常設展示室で実物大で再現している町並は、深川佐賀町をイメージしています。この町は明暦の大火(1657)後、隅田川に架けられた永代橋を江戸市中方面より渡ったところに位置し、深川の入口となりました。「佐賀町」の名は、肥前国佐賀(現在の佐賀県)に地形が似ているからといわれています。

今回は、展示室の舞台である深川佐賀町を通して深川の特徴、さらに町の施設についてみていきます。

1. 深川佐賀町とは

深川佐賀町は隅田川に面し、江戸湾(当時、現在の東京湾の正式な名称はなく、本号では便宜的に「江戸湾」と表記します)の入口にも近く、川と海に接した町です。江戸時代初期から江戸の町と隅田川をはさみ対岸にあたる立地から、江戸の新開地として発展しました。深川佐賀町は、次の3つの要素が特色として挙げられます。

- ① 深川^{りょうし}獵師町…寛永6年(1629)江戸前の魚介類を捕る深川獵師町八ヶ町の一つとして起立します。
- ② 江戸の町を作るための材木置場…寛永18年(1641)江戸の大火に伴い、日本橋周辺にあった材木置場が移転し、木場となりました。
- ③ 物流の拠点…隅田川に面し、江戸湾に近接し、町中を掘割が通る立地から、江戸に諸国から運ばれてくる荷物を運び入れる「蔵の町」となりました。

これら3つは、いずれも深川の代表的な産業と関連があり、すべて深川佐賀町から始まりました。

2. 「深川佐賀町惣^{そうえず}絵図」からみる町並

(1) 「深川佐賀町惣絵図」とは

「深川佐賀町惣絵図」は宝暦10年(1760)に作られた^{こけんず}沽券図(現在の土地家屋台帳)を基にその後、町年寄の喜多村氏が写したものです。当時の深川佐賀町全体の町割や、町の設備が詳細に記録されています。

(2) 深川佐賀町の特徴

「深川佐賀町惣絵図」から、深川佐賀町の町並み、

をみていきます。まず目に入るのは、隅田川沿いに並ぶ「河岸蔵」です。そして町中を走る掘割です。これらの掘割は、当時の物流の中心であった船運の便をよくするために、土地の開拓時に川幅が広げられたもので、その周辺には荷揚場もあります。

隅田川沿いに続く河岸蔵の向かい側には、ほぼ同じ間口の町屋敷が並びます。深川佐賀町に多かった米問屋・油問屋・干鰯問屋などが連なっていたと思われます。町中には幕府の御船蔵や武土地（武家地）もあり、上之橋から東に入ると仙台藩の蔵屋敷が並んでいました。

(3) 町の運営

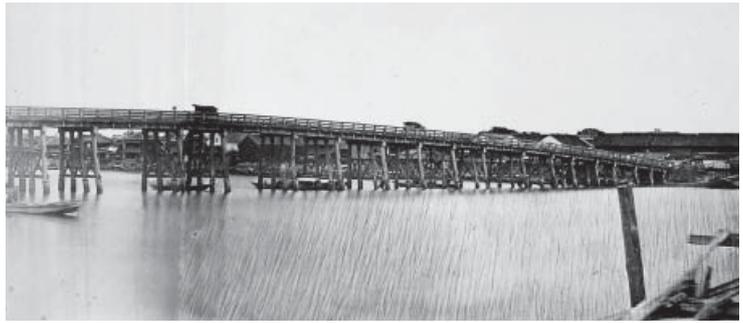
「深川佐賀町惣絵図」には、町を運営するためのさまざまな施設も記されています。幕府は町の運営を町自体に必要な経費も含めて管理を任せていました。

- ①町木戸と木戸番…町と町の境目に設けられました。木戸は夜 10 時頃に閉められ、不審者の確認など、町の防犯を担いました。
- ②自身番屋…町の自治や治安を担う事務所で、地主や大家、番人などが詰めました。火消や防犯の拠点でした。
- ③火の見櫓…展示室の櫓は、この火の見櫓をモデルに再現しています。火事や風の強い時に半鐘を鳴らして住民に知らせました。

3. 深川佐賀町の町屋敷

(1) 三井越後屋の貸蔵

佐賀町中之橋南に地貸（土地貸し）と貸店を持ち、不動産経営を行っていた三井家の町屋敷から、具体的な建物の配置を見てみます。この一角は「深川佐賀町惣絵図」の中にも記されています。佐賀町通



「幕末の永代橋」(部分) 慶応元年 (1865)
長崎大学附属図書館蔵。永代橋の奥が深川佐賀町

りに面して、長屋建ての表店、その裏の中之堀に面して 30 の貸蔵が並びます。隅田川から中之堀を入り、すぐという利便性を活かした貸蔵が中心の屋敷割です。敷地内には揚場があり、路地が九尺あるなど、倉庫街らしく広い敷地です。この場所は、中之堀沿いに 8 つの土蔵が並ぶことから「八戸前」といわれ、蔵の多かった深川佐賀町の中でも代表的な景観でした。

(2) 深川佐賀町の長屋

深川佐賀町の概況は「文政町方書上」（文政 11 年・1828）によると、以下の内容で紹介されています。

*数字は資料に基づく。

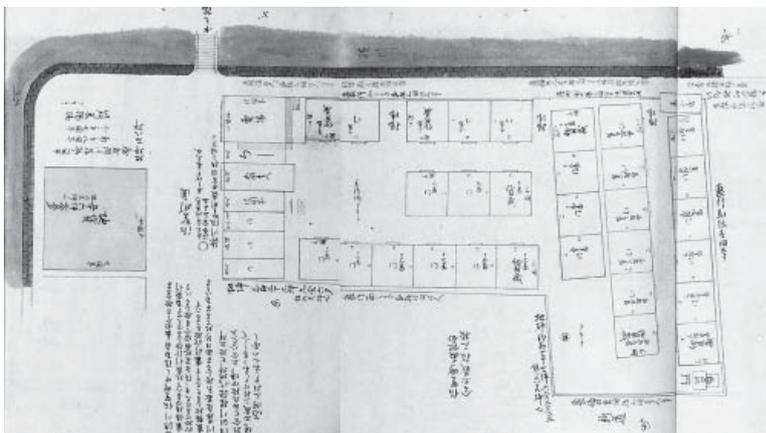
- ・町内惣間数…田舎間 615 間 1 尺 5 寸
- ・惣坪数…10,883 坪
- ・町内惣戸数…312 軒（内訳：家持 7 人・家守 47 人・地借 8 人・店借 249 人・明店 14 軒）

この記録から見ていくと、店借層が約 80% に及びます。深川は長屋などに住む店借の人々が多く住む地域でした。問屋、蔵、木場そして猟師町などに関連した仕事をする人々が多く住む町でもありました。また深川の長屋は、日本橋などの町人地の中心地に比べると路地幅など敷地が広がったことなども特徴です。

このように、深川佐賀町は深川の様々な要素を育んだ町でした。幕府の政策に基づき、水運を活かした町づくりがされ、そこに産業が生まれ、仕事として関わる人々が暮らしました。

(主な参考文献)

- 松本四郎「幕末・維新时期における都市の構造」『三井文庫論叢 4』（三井文庫/1970）
- 波多野純「深川の建築—河岸地を中心に—」『深川文化史の研究・下』（江東区/1987）



「中之堀南」（江戸抱屋敷絵図）文化 4 年 (1807)
公益財団法人三井文庫蔵